

関係各位

全国高等学校日本拳法連盟(JHNKF)

会長 阿部 政之

理事長 香美 秀一

(公印省略)

「第66回全国高等学校日本拳法選手権大会」の日程および会場の変更について

謹啓 時下盛夏の候、益々のご清栄の段、お慶び申し上げます。平素より、本連盟に対し多大なご理解とご協力を賜り、ありがとうございます。

さて、標記の件につきまして、7月28日(水)の臨時常任理事会(Zoom会議)、および7月31日(土)の大会運営会議にて審議した内容、および決定事項を下記の通り報告させていただきます。よろしくお取り計らいのほど、お願い申し上げます。 謹言

記

1. 現下の新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況に鑑み、令和3年8月21～22日に横浜武道館で開催予定であった「第66回全国高等学校日本拳法選手権大会」について【開催決行】【開催中止】【開催場所、日程の変更】の3つの方向性で協議しました。
2. 高校連盟が掲げる重要な事業として「普及・発展」があります。そのため、夏の全国高校選手権大会は開催地での日本拳法普及を期して全国各地を巡って開催するという方策を採って参りました。東日本方面では「東京武道館」「気仙沼市総合体育館」「静岡県武道館」などで開催した実績があり、地元の選手たちによる「合同チーム」「選抜チーム」の出場もありました。また、高校生トップ選手たちの試合を見ていただくことで日本拳法のすばらしさを各地で喧伝して来たという自負もあります。今回の横浜大会は、横浜市拳法連盟・神奈川県拳法連盟・日本拳法連盟の全面的なご支援を得て、「関東選抜チーム」も早くから結成されるなど開催に向けての機運も大いに高まっていましたし、東京オリンピック開催直後の「横浜武道館」で大会を行えるという点も高校生選手にとってはモチベーションアップに繋がる好材料でした。
3. 常任理事会・運営会議では、まず「大会の開催可否⇒開催すべき」となりました。続いて「横浜大会の可否」についての審議となりましたが、緊急事態宣言が8月2日から神奈川県に発出されることが決定されたことを受け、横浜での大会実施は見送らざるを得ないという結論に至りました。2にありますように、「関東方面での普及・発展に大きな意義を持つ大会であること」「現地各連盟の多大なるご支援に応えること」を十分に考慮したものの、その上での苦渋の決断となりました。
4. 選手のために大会を開催するという事は決定事項でしたので、【緊急事態宣言発出・まん延防止等重点措置適用がない地域にある会場】【過去に開催実績がある会場】【密を避けられる十分なキャパがある広い会場】【交通の便】等を勘案して「和歌山ビッグホエール」が代替会場として事務局より提案され、了承されました。
5. 以上により、決定された事項です。

○大会名：第66回全国高等学校日本拳法選手権大会

○期 日：令和3年8月18日(水)男女団体競技

19日(木)男女個人競技

○会 場：和歌山ビッグホエール

○その他：無観客試合で行う。

新型コロナウイルス感染症対応限定試合様式で行う。

各方面に多大なご心配をお掛けしておりましたが、連盟として以上のような結論に至りました。「選手ファースト」を第一義と考えて審議いたしました。このコロナ禍はなかなかの難敵であります。今後とも、ご指導ご鞭撻をいただければ幸甚です。よろしくお願い申し上げます。